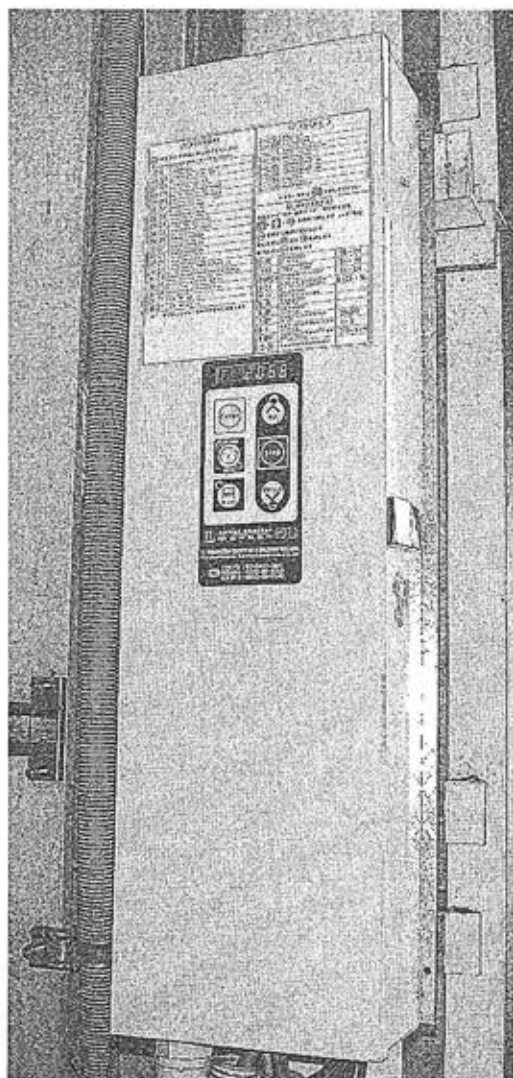


複数のシャッター開閉状況

IネットTMで遠隔監視

ネットワークシステムを開発



開閉状況を記録できる新しいシートシャッター制御盤

時間、頻度、閉口高、温度変化を記録

小松電機産業

通信ボード1台で最大31台管理

工場用シートシャッター製造の小松電機産業(株)(松江市乃木福富町、小松昭夫社長、☎0852・32・3636)は、複数のシャッターの開閉状況をコンピュータで一元管理し、インターネットで状態を監視するネットワークシステムを開発した。開閉時間、頻度、閉口高のほか、シャッター内と外にセンサーを付け、温度変化もすべて記録できる。情報を分析してシャッターの使用を必要最小限に抑えることが可能となり省エネに役立つ。食品などは品質管理で大幅向上が見込まれる。

同社は主力商品のシートシャッター「エクセレント門番」の制御盤に新たにシャッターの動作を記憶、通信する「通信ボード」を追加。インターネットで常時、遠隔監視することを可能にした。新型の制御盤は高さ六十二センチ、幅十七センチ、厚さ九センチ。現行型に比べて幅、厚さともや

省エネ、品質
管理向上

になった。
小松社長は「パソコンと携帯電話さえあれば、世界中どこにシートシャッターがあってもインターネットで監視できる。これが本当のIT革命。年間六千台を目標に世界へ向けて販売していきたい」と意欲的に話している。

やコンバクトになった。制御盤の情報は同社のサーバーに蓄積され、外部からパソコンで情報を確認できる。一台の通信ボードで最大三十一台のシャッターを管理することができる。現在、特許を申請中。
また「iモード」でも接続可能で、時間と場所を問わず状況をつぶさに把握。異常が発生すると自動的に警報も受信できる。米子の業者が三台、新潟の業者が五十台の導入を決めている。
同システムは京都議定書とHACCP(危害分析重要管理点制度)の二つを念頭に置き、二年前から開発が進められてきた。エネルギーロスが一目で分かり、地球温暖化防止のために二酸化炭素削減の具体的な数値目標を設定でき、HACCPの基礎となる記録とモニタリングが可能